

父の背中を、ようやく追い越せた日

キャラ	セリフ
イッチ(ナレーション)	小さい頃、父が大嫌いだった。
イッチ(ナレーション)	無口で厳しくて、褒めてくれたことなんてない。
イッチ(ナレーション)	「なんで俺ばかり叱るんだ」って、ずっと思ってた。
イッチ(ナレーション)	そんな父が倒れたのは、俺が就職した年の冬だった。
医者	『脳梗塞で、半身に麻痺が残るでしょう。』
イッチ	『……なんで、俺に何も言わなかったんだよ。』
イッチ(ナレーション)	病室で父は、何も言わずに天井を見つめてた。
イッチ(ナレーション)	それでも、母から父の口癖を聞いた時……涙が止まらなかった。
母	『あの子は、不器用だけど芯が強い。俺に似たんだって、よく言ってたよ。』
イッチ(ナレーション)	初めて知った。父が、俺を見ていてくれたこと。
イッチ(ナレーション)	父のリハビリに付き添う毎日。
イッチ(ナレーション)	いつか話してくれると信じてた。
イッチ(ナレーション)	ある日、父が震える手で俺の名を呼んだ。
父	『お前……ようやくな。』

イッチ 『……うん。ありがとう。』

イッチ(ナレーション) たった一言だった。けど、俺の心は救われた。

イッチ(ナレーション) あの日、父の背中に追いついた気がした。